

Sarcom der Iris

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38535

十全會雜誌

(第四拾壹號)

原著及實驗

○虹彩之肉腫 Sarcom der Iris.

高安右人

(澤金)

河本博士曰ク虹彩之色素性肉腫ハ極テ罕ニシテ一生一回遭遇スルモ已ニ幸運ニ屬スト白色肉腫モ亦發見ノ實例ヲ示セリト而シテ多クハ虹彩ノ瞳孔ヨリ下方ニ生シ虹彩ノ前層ヨリ發生シ多分ハ紡錘細胞ナリト論セリ(日本眼科學會雜誌第五卷第六號)又眼科雜誌第壹卷第五號ニ醫學士渡邊文治君ノ實驗報告アリ夫ハ十一才五ヶ月ノ男兒ニシテ虹彩ノ外方ニ一個下方ニ一個發生シタル色素性肉腫ニシテ紡錘細胞及圓形細胞ヨリ成レリト

ウエルテル氏ノ報告ニ曰ク葡萄膜ノ特發性肉腫ハ最モ罕ナル眼病ノ一ニシテフックス氏ハ千八百八十二年迄ニ文献上十六ノ實例ヲ集メ其後千八百九十三年迄ニ公表セラレタル三十九ノ實例ヲ得其他尙ホ二例ハ同氏自家ノ實驗ニシテ都合五十七例トナレリ ○エウエツキー氏ハ自家ノ一實驗ヲ加ヘテ四十九例ヲ得其後尙ホ八例ヲ得テ五十七ト成レリ是ウエルテル氏ノ數ト一致スルモノナリ之ニ上記河本博士及渡邊學士ノ各一例ト予ノ一例ヲ加フレバ都合六十ノ總數トナル史學アリテ以來僅ニ六十トハ實ニ稀ナル疾病ニシテ河本博士ノ言ノ如ク一生一回之ニ遭遇スルモ既ニ幸

運ニ屬ストハ實ニ過言ニアラス予モ亦幸運者ノ一人ニシテ虹彩肉腫ヲ有スル一患兒ヲ實驗セリ今之ヲ左ニ記載シ聊カ卑見ヲ述ント欲ス

明治卅七年二月廿四日一婦人女兒ヲ伴ヒ來リ予ニ其診ヲ乞フ訴テ曰ク一昨年七月頃ヨリ右眼角膜ニ雲狀ノ溷濁ヲ生ゼシモ醫治ニ依リ治セリ然ルニ昨年十月頃ヨリ同眼角膜ニ褐色ノ斑点ヲ生シ今日ノ狀ヲ呈スト患者ハ三歳ノ女子ニシテ發育營養共ニ中等別ニ著明ノ疾病ニ罹リシコトナシト

患眼(右眼)ヲ檢スルニ結膜角膜等更ニ異狀ナク只角膜ノ下方ニ於テ僅ニ周擁充血ヲ呈スルノミ前房ヲ見ルニ虹彩ノ下緣ニ於テ其表面ニ横ハル大凡米粒大ナル褐色ノ腫瘍アリ其上方ハ瞳孔緣マデ大凡三密迷程健在ス腫瘍ノ前面ハ殆ト角膜ニ達シ其表面ニハ許多微細ノ血管ヲ有セリ瞳孔ハ常大ニシテ圓形ヲ呈シ后癒着ナク反應亦別ニ異常ナカリキ眼底亦變化ナク視力ハ幼稚ナリシヲ以テ檢定シ能ハザリシ

夫上記ノ如クナリシヲ以テ一見乍チ肉腫ヲ推想セシト雖凡本病ハ元來非常ニ罕ナルト患者ノ余リ幼稚ナリシト表面ニ血管ノ多數存在セシトニ依リ少シク護謨腫ノ疑ヒヲ生シ且患母ハ容易ニ其手術ヲ肯ゼザリシヲ以テ暫ク驅煤法ヲ施シ其經過ヲ見ヨト思ヒ其處置ヲ施セシニ或ル事情ノタメ數日ニシテ來院セザル故誠ニ遺憾ノ事ト思ヒ居リシニ同年七月卅日突然再ヒ來院シ診ヲ請フ之ヲ見ルニ眼球著ルシク膨大突隆シ運動殆ト不能トナリ角膜全部赤帶灰白色ニシテ二三豌豆大ノ褐色扁平ナル結節ヲ生シ表面凹凸不平ナリ鞏膜面ニモ亦一二同様ノ結節アリ結膜少シク充血セリ患者ハ甚タ苦痛ノ狀アリ營養大ニ衰ヘリ爰ニ至テハ最早之ヲ摘出スルモ到底其生命ヲ救ヒガタキヲ諭セシモ責テハ暫クナリトモ其苦痛ヲ濟ヒ呉レトノ母ノ情願ニ任セ八月一日之ヲ摘出セシニ眼窩蜂窩織ハ未タ深く侵サレハリシモ視神經ハ殆ト全部通常ノ二倍ニ腫大硬結セリ患者ハ同月十一日ニ退院シ暫ク消息ヲ得ザリシニ其后三ヶ月計ニシ

テ遂ニ鬼藉ニ入レル事ヲ近頃ニ至リ聞知セリ

摘出シタル眼球ハ其儘十倍ノ フォルモール液ニテ硬化シ チュロイデンニテ封固シ鏡檢の標本ヲ製セリ之ヲ弱廓大ニ依リ檢スルニ網膜葡萄膜等悉ク毀損セラレ僅ニ色素ハ萎縮セル硝子体ヲ遺シ殆ト全ク腫瘍ヲ以テ充タサレ鞏膜ハ稍々健全ナルモ角膜ハ全ク侵害セラレ上皮細胞トデステュメット氏膜ノ一部ヲ見ルノ外殆ト其痕跡ヲ止メズ后方ニ於テハ視神經ノ近部ニ於テ鞏膜ヲ穿孔シ外部ニ發育スル大凡豌豆大ナル二個ノ腫瘍ヲ生ゼリ視神經モ眼窩内ニ在ル部ハ全ク肉腫細胞ニ浸潤セラル強廓大ニ依リ檢スルニ本腫瘍ハ主トシテ圓形細胞ヨリ成リ僅ニ紡錘形細胞群ヲ有ス血管ハ少ナキモ色素ハ可ナリ多シ又結締織ノ不正ニ増殖スル所アリ視神經ハ腫瘍細胞浸潤ニ依リ大凡一倍半ノ大サニ達シ神經纖維ハ全ク滅亡シ殆ト痕跡ヲ止メズ

今之ヲ史學ニ徵スルニ

第一、年齢ニ關シ本例ハ罕ナル内ノ又甚タ罕ナル實例ナリ如何トナレバ予ノ患者ハ三才ニシテ他ノ實例ニ徵スレバ三十才乃至六十才ヲ最モ多シトスレバナリ

第二、發生スル位置ハ通例虹彩ノ周圍縁ニ近ク特ニ其下方ヲ最多トス此点ニ於テハ予ノ實例モ同一ナリ

第三、造構ニ關シテハ虹彩肉腫ハ通例紡錘細胞ヨリ成リ時トシテハ尙ホ圓形細胞ヲ混有ス主トシテ圓形細胞ヨリ成リ僅ニ紡錘細胞ヲ有スルハ甚タ稀ニシテ圓形細胞ノミヲ有スル者ハ最モ罕ナリ予ノ腫瘍ハ主トシテ圓形細胞ヨリ成ル故ニ又此点ニ於テモ罕ナル實例ノ一ナリ

第四、色素ノ量ハ大ニ差アリ然レモ通例ハ多キ方ナリ全然之ヲ有セザル者ハ甚タ罕ナリ予ノ腫瘍ハ色素ノ少ナキ

方ナリ

第五、血管モ通例ハ可ナリ澤山アル者ナリ予ノ腫瘍ハ意外ニ多カラス

第六、發育ハ初メハ徐々ニシテ一定ノ時機ニ至レバ稍々迅速ナルヲ常例トス予ノ例モ亦然リ而シテ初メ殆ト五ヶ月餘ヲ經テ漸ク米粒大ニ達シ其後大凡五ヶ月ニシテ只ニ眼内ヲ滿スノミナラス尙ホ前后ニ於テ眼球壁ヲ破リ外方ニ發育セリ之レ他ノ實例ト一致スル所也

本腫ハ外見上特ニ初期ニ於テ往々護謨腫ニ酷似スル處アリ其類症診斷甚タ困難ナルコトアリト雖トモ護謨腫ハ多ク虹彩ノ瞳孔緣ヨリ發生シ其部速ニ水晶体ト癒着ヲ起シ肉腫ハ之ニ反シテ周圍緣ニ接近シ癒着ヲ起サザルハ大ニ診斷上緊要ナル点ナリ

畢竟予ノ實驗シタル患者ハ甚タ幼稚ニシテ腫瘍ハ褐色ヲ呈シ虹彩周圍緣ノ下方ヨリ發生シ主トシテ圓形細胞ヨリ成リ色素及血管ハ僅少ニシテ其常例ト多少異ナル点ハ患者ノ幼稚ナルト主トシテ圓形細胞ヨリ成ルト血管及色素ノ僅少ナルニアリ

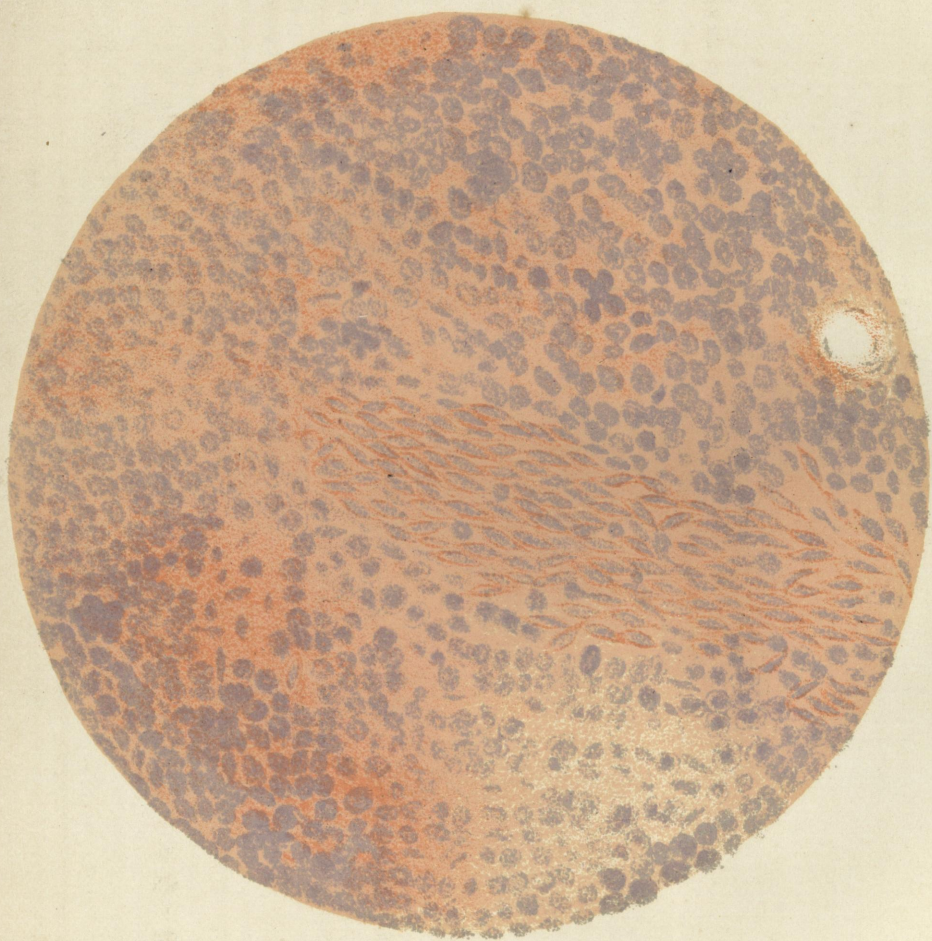
終ニ臨ミ本題ニ關スル顯微鏡的採圖ニ對シ深ク吉池醫員ノ勞ヲ謝ス

(本題ハ日本眼科學會雜誌ニ曾テ投稿セルモノナリ)

LITERATUR

1. Meyer, Lehrbuch der Augenheilkunde.
2. Michel, klin. Leitfaden der Augenheilkunde, pag. 150.
3. Schmidt-Rimpler, Augenheilkunde u. Ophthalmoscopie, pag. 515.
4. Fuchs, Lehrbuch der Augenheilkunde, pag. 369.

虹彩肉腫



5. Vossius, Lehrbuch der Augenheilkunde. pag. 451.
6. Von Graefe, Handbuch der Augenheilkunde. Bd. IV. pag. 552.
7. Hirschberg, Archiv für Ophthalmologie. Bd. XIV. pag. 283.
8. Berthold, do Bd. XV. pag. 168.
9. Freudenthal, do Bd. XXXVII. pag. 148.
10. Ewetzky, do Bd. 42. pag. 172.
11. do do Bd. 45. pag. 609.
12. Pawel, do Bb. 49. pag. 72.
13. Kopetzky, do. Bd. 52. pag. 330.
14. 渡邊文治 眼科雜誌 第一卷 第五號
15. 河本重次郎 日本眼科學會雜誌 第五卷 第六號
16. Robertson, Archiv für Augenheilkunde. Bd. 3. H. 2. pag. 131.
17. Kipp, do Bd. 5. H. 1. pag. 177.
18. Knapp, do Bd. 8. pag. 241.
19. Van Gieson, do Bd. 22. pag. 124.
20. Werther, do Bd. 32. pag. 297.

○橫隔膜破裂ノX放線診斷

醫學得業士 吉田 幡 誠

(澤金)

橫隔膜ノ破裂ハ普通ノ診斷的手段ヲ以テシテハ發見シ難キ症トス。みくりつ、ぶるんす、共編實際的外科學第一版橫